



この目標を達成するため、ネットワークのアセスメントを徹底し、通信環境の改善を進める方針です。

◆「生成 AI の活用を通じた教育課題の解決・教育 DX の加速」8 億円

令和 5 年度から「生成 AI パイロット校」を指定し、教育や校務での実践例を、積極的に支援しています。

子供たちの学びのさらなる充実や、教職員の負担を軽減するため、パイロット校以外の国内事例の収集や教育分野に特化した生成 AI モデル・サービスに関する実証研究を進めるとしています。

これにより、生成 AI が教育現場でどのように役立つかを具体的に検証し、効果的な利用方法を提案していくことが期待されています。

▼令和 7 年度概算要求のポイント

[https://www.mext.go.jp/content/20240827-ope\\_dev02-000037780\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240827-ope_dev02-000037780_1.pdf)

◇◆ トピックス (2) .....

文部科学省「不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果に係る成績評価について」を公表

.....◆◇

文部科学省は 8 月 29 日、「不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果に係る成績評価について」を公表しました。

現在、小・中学校における不登校の児童・生徒数は 10 年連続で増加しており、令和 4 年度には、約 29 万 9,000 人と過去最多を記録しています。

こうした状況を受け、教育支援センターや学校外の機関、自宅で学習する不登校児童・生徒の学習の成果が指導要録上、成績に反映される機会も増えています。

本通知では、不登校児童・生徒の努力の成果を適切に評価するため、欠席中に行った学習の成果を成績に反映する場合の法令改正について公表しました。

対象となるのは、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校前期課程、特別支援学校小学部・中学部に在籍する不登校児童・生徒です。

成績に反映する取り組み例として、以下が挙げられていました。

- ・一人 1 台端末を活用し、教育支援センター等から学校の授業に

オンライン参加した学習成果を成績に反映。

- ・ フリースクールに通う不登校児童・生徒の学習成果について、定期的な報告書の提出と学校との連携体制を整備し、学校課題や定期テストへの取り組みを評価して成績に反映。

文部科学省は、不登校児童・生徒の多様な学びの成果を、より柔軟かつ公平に評価する姿勢を示しています。

今後、学校外での学びが適切に認められることで、誰一人取り残されない学びの充実が、一層進むと期待されています。

▼不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果の成績評価に係る法令改正について

[https://www.mext.go.jp/content/20240829-mxt\\_jidou01-000037819\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240829-mxt_jidou01-000037819_01.pdf)

▼不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果に係る成績評価について（通知）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1422155\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155_00002.htm)

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

□【2】 情報セキュリティ事故ニュース ～ささいなミスが事故を招く～

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

★☆ 情報セキュリティ事故の発生状況（2024年9月3日調査）

- ☆★ (1) 紛失・置き忘れ：5件 (2) 誤公開：4件 (3) 誤配布：3件
- (4) 誤送信：2件 (5) ワーム・ウイルス感染：1件 (6) 誤廃棄：1件

☆★ >> <https://school-security.jp/leak/>

2024年8月は、合計16件の事故が発生しました。

情報セキュリティ事故の内訳と概要（都道府県名、公表日、組織区分、漏えい経路・媒体、個人情報数）は以下の通りです。

(1) 紛失・置き忘れ

宮崎県 2024年8月8日 小学校 USBメモリ 158件

埼玉県 2024年8月9日 県立高等学校 書類 1件

山形県 2024年8月19日 市立小学校 USBメモリ 1件

茨城県 2024年8月20日 県立高等学校 書類 55件

長野県 2024年8月27日 県立高等学校 USBメモリ 369件

(2) 誤公開

兵庫県 2024年8月5日 町その他 ホームページ・Web 275件

岡山県 2024年8月19日 国立大学 システム・サーバー 不明  
富山県 2024年8月23日 県立高等学校 インターネットサービス・アプリ 21件  
大阪府 2024年8月29日 府立高等学校 インターネットサービス・アプリ 295件

(3) 誤配布

北海道 2024年8月5日 道立高等学校 書類 1件  
愛知県 2024年8月13日 市立中学校 書類 1件  
山形県 2024年8月27日 町立不明 書類 9件

(4) 誤送信

滋賀県 2024年8月23日 市その他 電子メール 93件  
奈良県 2024年8月31日 県立高等学校 電子メール 66件

(5) ワーム・ウイルス感染

東京都 2024年8月28日 都立高等学校 パソコン 326件

(6) 誤廃棄

東京都 2024年8月27日 その他 書類 125件

※以下の参考サイトをもとに、学校、公的教育機関、関連組織で発生した情報セキュリティ事故の内訳と概要を掲載しています。事故の詳細は、上記に記載されている項目を検索するなどして、ご確認をお願いいたします。

参考サイト：

Yahoo!ニュース／埼玉県ホームページ／NHK NEWS WEB／神戸新聞 NEXT／  
産経ニュース／富山新聞デジタル／大阪府ホームページ／松前町ホームページ／  
ニュースサイト「毎日新聞」／奈良新聞デジタル／東京都教育委員会ホームページ など

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

□【3】 学校ICT・セキュリティコラム

■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■□□■

---

◆生成AIの授業活用から見えた成果と課題◆

相模原市立中野中学校 保健体育科総括教諭・教務主任 梅野 哲

---

本校では、文部科学省が昨年7月に発表した生成AIに関するガイドラインに基づき、生成AIパイロット校として、授業や校務で具体的な取り組みを進めてきた。

「とにかく使ってみる」というアプローチから見えてきた成果と課題について考察する。

昨年12月からChatGPTの活用が進み、日常使用する段階において、生徒や教師それぞれに使い方の差が見えてきた。今年5月に行った3年生のアンケート結果によると、約4割の生徒が「回答をインターネットや教科書などの他の情報と比較した」「回答から必要な内容だけを自分の考えに取り込んだ」「自分が納得するまで違う視点で繰り返しChatGPTに質問した」「回答をアレンジして新しい自分の考えを生み出した」のいずれかを回答し、ほぼ毎日ChatGPTを活用していた。これらの生徒の学習カードや振り返りシートから、思考の深まりや新たな気づきを観察することができた。

一方で、約2割の生徒は「必要な情報が得られないため使うのを諦めた」「より良い回答を引き出すプロンプト（入力する文章）を考えられないと感じた」「回答が難しすぎてよく分からなかった」のいずれかを回答し、ほとんどChatGPTを活用していなかった。さらに、「コピーしてレポートなどにそのまま貼り付けた」と回答する生徒もいた。教師からも「授業の中で効果的な活用方法がイメージできない」などの声が聞こえてきた。このことから、生徒には生成AIの効果的な使い方を学ぶための支援、教師にもそのための指導方法の支援が求められていることがわかった。

そこで、プロンプトのテンプレートを多数作成し、各教師には「何のために使うのか」を考えて模倣またはアレンジし、活用してもらうこととした。例えば、社会科の授業では「自由民権運動と激化事件」をテーマにしたプロンプトを使用し、生徒が生成AIと対話しながら内容の理解を深める方法を試みた。また、理科の授業では、学習カードや振り返りシートのデータ分析を行うプロンプトを用いて、他者の考察と比較することで多面的な見方や考え方を育成した。さらに、国語の授業では、ChatGPTを活用して俳句を創作し、いろいろな言葉の言い換えを考えることで語彙力や表現力の向上を図った。

これらの取り組みは、生成AIを活用する目的が明確であり、生徒にどのような力を身につけさせたいかを意識しながら実践できた。今後、生成AIの活用を通じて、各教科の学びとAIを使うスキルの学びを相互に高め合うことが期待される。教師はその過程で、活動によって生徒が「何ができるようになったか」を価値付けることが重要である。こうしたプロセスを通じて、「もっと学びたい」「いろいろな使い方をしたい」という学びの好循環が生まれていく。

現代は「解がない時代」と言われており、覚える力よりも考える力が求められている。生成AIが情報を提供し、問題解決のためのヒントを与える存在となることで、

教師の役割は「情報の提供者」から「学び方のガイド役」へと変化していくのではないか。  
生成 AI と共に歩む新しい教育の道を拓くことは、まさに教師のミッションであり、  
これからの教育を豊かにするための挑戦と言えるだろう。

◆ 執筆者プロフィール ◆

梅野 哲

相模原市立中野中学校 保健体育科総括教諭・教務主任

日本教育工学会（JSET）会員

相模原市立中学校教員・神奈川県立高等学校教員

バンコク日本人学校教員を経て令和 2 年より現職

令和 2 年に相模原市 GIGA スクール構想の推進校として、

学校独自で勉強会を重ね積極的に ICT を活用し、

令和 3 年に Google 事例校に認定される。令和 5 年よりリーディング DX・

生成 AI パイロット校に文部科学省より指定を受ける。

生成 AI を活用した授業研究と普及活動に力を入れており、

NEW EDUCATION EXPO 2024 で実践発表や

日本教育工学会（JSET）2024 全国大会で研究発表を行っている。

▽ 学校 ICT に精通した先生方の書き下ろしコラム

>> <https://school-security.jp/column/>

……◆◆ 【最新版】「個人情報漏えい事故の発生状況調査報告書」を公開 ◆◆……

ISEN では、今年 6 月に「令和 5 年度 学校・教育機関における個人情報漏えい  
事故の発生状況」調査報告書（第 1 版）を Web 公開しました。

第 2 版は、11 月中旬頃公開予定です。

>> [https://school-security.jp/leak\\_all/](https://school-security.jp/leak_all/)

---

<事務局>

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会（ISEN）

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 2 階（株式会社 JMC 内）

<https://school-security.jp/>

---

▽「教育の情報化や学校情報セキュリティ対策」にご興味をお持ちの方が  
いらっしゃいましたら、本メールマガジンをご紹介ください。

メルマガ登録フォーム：<https://fs220.xbit.jp/y592/form2/>

▽ 個人情報の取り扱いは下記リンクをご参照ください。

<https://school-security.jp/privacy/>

▽ お問い合わせ・配信停止・メールアドレスの変更は、

下記フォームよりご連絡ください。

<https://fs220.xbit.jp/y592/form3/>